

小笠原航空路開設推進特別委員会速記録

平成30年3月9日（金曜日）午後2時開会

出席委員（6名）

委員長	一木重夫君	副委員長	清水良一君
委員	稲垣勇君	委員	杉田一男君
委員	鯉江満君	委員	安藤重行君

委員外出席議員（1名）

議長	池田望君
----	------

出席説明員

村長	森下一男君	副村長	渋谷正昭君
教育長	松本隆君	総務課長	セーボレー孝君
総務課副参事	杉本重治君	総務課企画政策室長	樋口博君
財政課長	江尻康弘君	村民課長	村井達人君
医療課長	佐々木英樹君	産業観光課長	牛島康博君
環境課長	深谷雪雄君	建設水道課長	繁藝則仁君
建設水道課副参事	岩本弘幸君	母島支所長	湯村義夫君
教育課長	持田憲一君		

事務局職員出席者

事務局長	大津源君	書記	萩原佳代君
------	------	----	-------

議事日程

日程第1 小笠原航空路開設に関する経過報告及び今後の対応について

日程第2 その他

日程第3 閉会中の継続調査について

◎開会の宣告

○委員長（一木重夫君） ただいまから小笠原航空路開設推進特別委員会を開会します。

出席委員が定足数に達しておりますので、本日の会議を開きます。

（午後２時）

◎会議時間の延長

○委員長（一木重夫君） あらかじめ会議時間の延長をしておきます。

◎説明員の出欠について

○委員長（一木重夫君） 次に、説明員の出欠について事務局長に報告させます。

○事務局長（大津 源君） ご報告いたします。

本日の委員会は、説明員全員が出席との通知がありました。

以上でございます。

◎小笠原航空路開設に関する経過報告及び今後の対応について

○委員長（一木重夫君） それでは、本日の議題に入ります。

日程第１、12月定例会以降の小笠原航空路開設に関する経過報告及び今後の対応について、執行部から報告を求めます。

総務課企画政策室長、樋口君。

○総務課企画政策室長（樋口 博君） それでは、前回の委員会以降の動きにつきましてご報告をさせていただきます。

まず、陳情活動その他でございますが、村長の陳情活動としまして、12月26日、山口那津男参議院議員、また佐藤正久参議院議員、12月28日、金子恭之衆議院議員、年明けまして1月15日、二階俊博衆議院議員をそれぞれ訪ねまして陳情を行いました。

また、来島視察でございますが、1月9日、小笠原諸島振興開発審議会の委員2名が来島されまして、候補地である洲崎を視察されました。

また、2月10日、東京都の港湾局長、また島しょ・小笠原空港整備推進担当部長ご一行が来島されまして、同じく候補地、洲崎を視察されました。

それから２点目、国・東京都に関することでございますが、資料に記載した事項以外で、

口頭で2件ご報告をさせていただきます。

まず1点目でございますが、1月5日、小池東京都知事の定例記者会見、年明けての最初の定例会見がございました。そこで、都知事から小笠原諸島の返還50周年記念事業についてご報告があり、その後記者との質疑応答の中で、テレビ東京の記者の方から小笠原の航空路について今の東京都の進捗状況、それから石原前都知事の考え方も披瀝された上で小池知事自身、小笠原諸島に空港をつくる必要があるかどうかという2つのご質問が出されました。

それに対しまして、小池知事の答弁としましては、環境大臣時代にエコツーリズムを中心とした動きを整理をしたということ、世界自然遺産に登録されていることを踏まえつつ、ただ一方で医療面から、小笠原の村民の方々には空の足の便の確保というのも必要だという認識を示されました。

また、昨年7月に開催されました小笠原航空路協議会での内容に触れられまして、今現在1,200メートル滑走路の案を中心に検討を進めているけれども、自然環境を守りながらも自然改変が少なく済むような幅広い検討が必要だと、そのことを小笠原航空路協議会でも村も交えた中で確認をし、今後こういった形が一番いいのか、村とも連携しながら検討を進めていくという趣旨の発言がされました。

それから、2つ目の報告でございますが、同じ日、1月5日に中川環境大臣の定例記者会見がございました。その中で環境省の所管事項について報告された後、NHKの記者から小笠原の航空路について質問が出されております。

昨年末から、マスコミで東京都の来年度予算についていろいろ報道がされている中で、小笠原の航空路についても調査費が計上されていると、そういったことを踏まえて世界自然遺産登録をされている小笠原で飛行場を建設するということに関して、中川大臣がどういうふうに捉えていらっしゃるかという趣旨の質問が出されております。

それに対しまして、環境大臣からは地元小笠原から航空路の要望があることは承知していると、また一方で小笠原地元の方々が一生懸命、世界自然遺産、自然環境を守る努力をされているということは承知していると。それを前提とした中で、環境省としては設置主体である東京都に基本的には協力をしていくスタンスであるという旨の発言がなされております。東京都から具体的なご相談があれば、環境省の立場で真摯に相談に対応していくという旨の発言がなされたところでございます。

口頭ではございますが、2点まずご報告をさせていただきました。

資料に戻りますが、東京都に関することとしまして、まず1点目、2月15日に小池都知事と村長との意見交換会が開催されております。その中で改めて村長から知事に直接航空路の開設を要望しました。

2つ目でございますが、昨年末からマスコミで報道されております来年度の東京都の航空路の調査費につきまして、1億2,000万円予算要求をされているという状況でございます。今年度と比べまして1,000万円ほど増えているという状況でございます。

それから、3点目が航空路案の今後の検討予定についてでございますが、平成29年度調査を現在東京都は実施しております。もう3月に入りましたので、ほぼ内容的には出そろったかと存じますが、今後この調査結果を踏まえまして小笠原航空路に関する検討会議、いわゆる実務担当者の会議、これでその内容を検討いたしまして、その後、親会議である小笠原航空路協議会が開催され、そこで議論をし、6月の知事の来島を迎えるという流れで東京都からは聞いています。

それから、4点目の報告でございますが、2月13日、小笠原諸島振興開発審議会が開催されました。その中で東京都から航空路に関する検討状況が報告されております。

報告内容につきましては、昨年7月に開催された小笠原航空路協議会の内容と同じでございました。要は、3案で検討していたものを今後は洲崎地区案を前提に検討を進めるということ、それから、洲崎地区での1,200メートル案については継続して検討するけれども、いろいろ自然改変での課題がありますので、もうちょっと自然改変が少なく済むような案についても幅広く検討を進めていくという内容でございます。

それから、5つ目のご報告でございますが、都議会におけます代表質問で公明党の東村幹事長から小笠原の航空路について質問がされております。

質問の趣旨としましては、小笠原村の最大の課題は航空路の整備であるけれども、返還50周年という節目の年に当たる今年こそ小笠原村民の悲願である航空路整備を大きく前進させるべきだと、それに対する知事の見解を質問されております。

知事の答弁といたしまして昨年7月の航空路協議会において父島の洲崎地区を活用する案を中心に今後検討を行う旨を確認していると。東京都としては自然改変の程度を軽減させるためには、滑走路の長さを可能な限り短縮させることが必要と考えており、現在それにふさわしい就航可能な機材等を含めて幅広く調査を実施しているところである。今後、調査結果を踏まえて自然環境と調和した実現可能な航空路案が取りまとめられるよう、村と連携しながら検討を進めていくという趣旨の答弁がなされたところでございます。

報告につきましては、以上でございます。

○委員長（一木重夫君） ただいまの報告について、質疑、意見のある委員は挙手をしてください。

杉田一男委員。

○委員（杉田一男君） 航空路の今後の検討という部分で、これは解釈の違いかも知れないんだけど、平成29年度の調査結果を踏まえて航空路協議会が開かれて、その中で検討するという流れの中で6月の記念式典に知事が来てということになっているんだけど、この航空路協議会の結果を踏まえて、知事から何か話が出てくるという捉え方でもいいんですか、これ。

○委員長（一木重夫君） 総務課企画政策室長、樋口君。

○総務課企画政策室長（樋口 博君） 村のほうから東京都に対しまして、返還50周年を迎える今年には、今までの検討を踏まえて東京都の航空路に対する一定の方向性をぜひとも示していただきたいというお願いをしてきております。

それを真摯に受けとめていただいて、今精力的に検討を進めていただいているところなんです。6月式典に知事が来島された際には、その時点での一定の方向性というのは示されるものだというふうに、私も担当課としては考えています。

航空路計画案が全て固まって、知事の来島を迎えてそこで知事が何か発表するということではなく、東京都の検討を進めてきた結果として、その時点での都の一定の方向性に関する考え方を、多分知事のほうから述べられるんだろうというふうに理解しています。

○委員長（一木重夫君） 杉田一男委員。

○委員（杉田一男君） この来年度、平成30年度の予算案を見て、調査費1億2,000万円、前年より1,000万円増えている。小笠原の航空路調査でいえば、今までどれだけのお金が使われてきたかわからないけれども、毎年毎年1億円近い金を東京都が使って調査していて、来年度は何の調査をするかという部分は村にもお話はあるんですか。

○委員長（一木重夫君） 総務課企画政策室長、樋口君。

○総務課企画政策室長（樋口 博君） 昨年末からの知事の発言等にも垣間見られますが、昨年7月の航空路協議会で自然改変の影響を少なくするために幅広く検討をします。その一環が今年度やられている調査でございます。

今年度の調査だけでその幅広くというところが全て網羅して調査できるわけではないというふうに、東京都からは聞いています。平成30年度も引き続いて幅広く調査を続けていく

という内容で聞いています。

○委員長（一木重夫君） 杉田一男委員。

○委員（杉田一男君） これ、私の記憶違いもあるかも知れないんだけど、この知事の話の中で、小笠原の航空路は自然に配慮してできるだけ短いほうがいいのではないかという話もありましたけれども、当初は小笠原村議会の考え方が800メートルだの900メートルでいいから、とりあえず既成事実をつくりたいという話があった中で、東京都から1,200メートルにしないと航空路として汎用性が薄いと。

この汎用性というのは規定機種だけではなく、いざ災害というときに今海上保安庁とか警察でも持っている飛行機が降りられる、そういうような汎用性がないと超離島の滑走路、航空路としては、ちょっと問題があるんじゃないかという話があったような記憶をしています。私の勘違いであればいいんですけども、東京都から1,200メートルのほうの利用価値が高いんじゃないかというような話も聞いたことがあるので、一回整理する意味で、現実的に村ではどう捉えていますか。

○委員長（一木重夫君） 総務課企画政策室長、樋口君。

○総務課企画政策室長（樋口 博君） ご承知のとおり、平成13年に時雨山周辺域候補地が白紙撤回されました。村はその後、村議会とも協議して要望の仕方を変えていこうと、村としても滑走路に対する一定の考えを持った上で東京都に要望していこうということで、平成14年から18年まで5カ年かけまして村は独自に調査をし、村の一定の滑走路に対する考え方をまとめました。

その考え方の前提が、独自調査の中で最初の頃は洲崎における陸上域800メートル、900メートルを前提とした案で検討しておりましたが、杉田委員が今おっしゃった汎用性等を考えたときにその時点では1,200メートルがベストだろうということで、むしろ村の考え方として1,200メートルがよかろうということでまとめたところでございます。

その当時、東京都の航空路の考え方として1,200メートルという案はあったかと思いますが、むしろ汎用性だとかそういったところについて、東京都から村に対してということよりは、村は村の独自の調査の中でそういう判断を持っていたということでございます。

○委員長（一木重夫君） 杉田一男委員。

○委員（杉田一男君） 村長にお聞きします。

この航空路に関してはこの特別委員会で何回も質疑応答されていますけれども、何年たっても前向きな答えがなかなか出てこない。これは事業主体が東京都であるという部分も大

きく絡んでくるとは思いますけれども、東京都の知事がかわるたびに、また今まで前向きだったのがもうちょっと引っ込むようだとか、受けた感じがあり、そういう意味で返還50周年の記念式典のときに知事が来るということは、村民の皆様にとっては航空路に関して少しでも進んだお話があるのではないかと期待する部分もあるわけですね。

確かに東京都でも開設に向けて一生懸命やってくれているとは思いますが、やはり毎年毎年調査費だけではなくて開設に向けた調査費がつけるような形をぜひつくっていく必要があると思うんですけれども、そういった中で航空路協議会には、村長、議長も出て、多分じくじたる思いもあるかとも思いますけれども、やはり村民の悲願として位置づけている以上は、できるだけ早い時期に、一步でもそういう意味でこの返還50周年ということはいいいつの出発点だと思うんですね。

そういう部分も含めて、もう短期決戦のつもりで、最後の踏ん張りのような形で村長にももうちょっと、多分やっているでしょうけれども、村の独自のあれではなかなか動かないという部分もあります。村長としてこの返還50周年の知事来島に向けて何か展望があればお聞かせください。

○委員長（一木重夫君） 村長、森下君。

○村長（森下一男君） まず、言葉の使い方には気をつけながら答弁をさせていただくつもりでおります。

知事がかわるたびに方向性が変わるということは、知事の考え方で多少のことはあろうかと思います。しかしながら、こういう計画というものは実務型できちっと積み重ねてきたものでしかるべき手続きを経て決定していくということは、それは知事がかわっても既に決定を見たものについて、大きく変更ができるというふうなことはなかなか考えにくいことだと思っています。

そういう前提の上で、私はこの特別委員会の中でもさんざん議論してきましたが、地に足のついた、何か漠然としたものでない、そういう計画になるようお願いをしましました。

その一つが、現在、国の航空局や国土政策局を入れ、そして東京都、村と、要するに実務者の中で具体的に実現可能なものを数年間いろいろ議論をしてきて、ようやく今年の7月の航空路協議会で基本的な考え方というものが示されたわけでございます。

マスコミ報道とか見ると今年だけ何か、調査費がついているように言われますが、その調査に関してはずっと今までもお金をつけていろいろな調査をかけてきたわけです。そうし

たように着実に地に足のついた形でのことが積み重ねられてきて、先ほど室長も答弁しましたように、私としては返還50周年という節目の年に都の一定の方向性の考え方をきちっと示していただきたいと申し上げてまいりましたので、知事がいらっしゃったときに方向性を出せるように今着実に歩を進めていただいていると思っております。

また、そういう歩を進めていただけるように私もこれからお願いをしてまいりますし、東京都や私どもの小笠原の航空路についての基本的な考え方というものについてもちゃんと理解がずれているところもございますので、テレビ取材、新聞取材、マスコミの取材等を通して、またきちっと発信もしていきたいと、このように思っているところでございます。

○委員長（一木重夫君） 杉田一男委員。

○委員（杉田一男君） 去年、私から見ると久しぶりの航空路協議会ができて、動き出して、これは返還50周年に向けていい地固めができるんじゃないかとそういう期待感もあるわけですね。そして、さらに言えば小笠原村議会の中にわざわざ特別委員会まで設置して、航空路を本当の意味の悲願と位置づけて、村長だけではなく議会としてもそういう位置づけで動いてきているわけですね。

そういった中で、多分壁といえば事業主体が東京都という部分が重くのしかかりますけれども、小笠原を応援する会など、国会議員の先生方の中にも本当に小笠原の航空路を心配してくださる方がいっぱいいると。そこへもってきて返還50周年、そして航空路協議会が動き出した。この機会を逃さずに、ぜひ村長にももう一踏ん張りしていただいて、議会でお手伝いするところは遠慮なく議長に言っていただいて、本当の意味の二人三脚でこの航空路開設に向けていく必要があると。

そして、この返還50周年を何だか終わっちゃったという感じで終わらせるとまたいつになるのかという不安感もあるので、ぜひこの機を捉えて頑張っていただきたいし、私たちも頑張っていこうと思っていますので、その辺をよく念頭に置いてぜひ今後とも頑張っていただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

○委員長（一木重夫君） その他ございませんか。

清水良一副委員長。

○副委員長（清水良一君） 東京都の予算1億2,000万円、今年度が1億1,000万円、それから村の調査費も大体1,000万円ぐらい毎年使われているようなんですが、調査した内容というのは、村としても東京都の調査の内容なんかも捉えているんでしょうか。

○委員長（一木重夫君） 総務課企画政策室長、樋口君。

○総務課企画政策室長（樋口 博君） 先ほど村長の説明の中にもございましたが、今実務的に航空局も交えて非常に具体的な検討状況になっております。当然そのもとは東京都で行っている航空路の計画案の調査がベースになっております。そういったことを踏まえまして、私ども担当課でも東京都が行った調査結果そのものはいただいている状況でございます。

○委員長（一木重夫君） 清水良一副委員長。

○副委員長（清水良一君） 調査結果をいただいているということですが、今後はそれはもらおうと思えばもらえるものですか。それとも、それは東京都が抱えているということになるのでしょうか。

○委員長（一木重夫君） 総務課企画政策室長、樋口君。

○総務課企画政策室長（樋口 博君） 正規の手続き、手順を踏めばそれなりの対応はあるんですが、今中身自体がそういった細部にわたって非常に繊細な検討をしているような状況もございますので、一般的には東京都にくださいと言ってもなかなか出していただけないというのが実情でございます。

○委員長（一木重夫君） 清水良一副委員長。

○副委員長（清水良一君） そうしますと、今話聞いた中で、村の案は1,200メートルということで大体固まっていたんでしょうけれども、東京都の案というのは、前は1,200メートルでどういう構造かというのがわからないというお答えがあったと思うんですが、今は滑走路の長さは東京都は決まっていないという理解でよろしいんですね。

○委員長（一木重夫君） 総務課企画政策室長、樋口君。

○総務課企画政策室長（樋口 博君） 昨年7月の航空路協議会の資料をお配りして、議会に対してご説明もさせていただきました。その資料に記載されているんですが、今まで検討を進めてきた洲崎における滑走路案については、東京都は1,200メートルを前提に検討をしてきております。

今後その1,200メートル案で洲崎で整備をしたときに、中山峠、その他周辺域で切り土をしなければいけない。その量が大きいものですから、東京都としても世界自然遺産に登録されている小笠原の自然改変の影響を小さくできればそれにこしたことはない、だから幅広く1,200メートルと並行しながらもうちょっと短い滑走路でできないかだとか、そういった幅広い調査をやっているということでございます。

ですから、いずれにしても検討案として1,200メートルで今まで来ているし、今後も1,200メートルの案自体は残るんですが、東京都としてはまだ滑走路を何メートルにするという決定は一切しておりません。検討の途中であるという状況でございます。

○委員長（一木重夫君） 清水良一副委員長。

○副委員長（清水良一君） 検討の途上にあるということで理解させてもらっていいみたいなんですが、やはり1,200メートルということになりますと海に出ていくわけです。切り土とかそういった部分は結構聞くんですが、今東南海の津波の件とかそういったことで行文線が動いている中で、海に出ていく上でのそういった部分の検討というのは調査結果が出ていないのでわからないようですが、その辺は東京都は調べているのかどうかというのはどうなんでしょうか。

○委員長（一木重夫君） 総務課企画政策室長、樋口君。

○総務課企画政策室長（樋口 博君） 実務方の検討会議の中ではそういった話も出ておりまして、以前、いつでしたか、フジテレビか何かで滑走路の話が出て、海に出ている部分については東京都は埋め立てるみたいな報道がなされたことがありました。決してそういうわけではなく、自然改変の影響を小さくしたいというのは東京都も同じような視点を持っていますので、当然海流ですとかそのあたりの影響度合いも踏まえた上で、今後具体的に海に出た部分を埋め立てるのか、あるいは一般論で言えば栈橋形式にするのか、別の方法をとっていくのか、そのあたりは東京都の立場でもよくよく調査した上で検討されると、そういうふうに理解しております。

○委員長（一木重夫君） 清水良一副委員長。

○副委員長（清水良一君） 津波のほうの検討はどうなんでしょうか。

○委員長（一木重夫君） 総務課企画政策室長、樋口君。

○総務課企画政策室長（樋口 博君） 東京都自体が、海に出るという部分では外洋からの波に対するというのは一般的な課題として想定はされますが、そのことに対して調査をしたかどうかというのは把握はしておりません。

ただ、村の独自の調査の中では、当然過去いろいろな台風の余波で、例えば湾内の要岩が隠れるほどの波が来たことも目の当たりにしております。そういったことを踏まえて、外からの波に対する影響は村の調査の中ではやっております。

○委員長（一木重夫君） 稲垣 勇委員。

○委員（稲垣 勇君） 村長にお聞きしたいと思います。

昨年からの返還50周年の式典のときに知事が来るに当たって、東京都からそれなりの一定の方向性を見出せる決断をしていただくというふうに働きかけをしていくということでございました。式典が6月30日となると次の6月の定例会ではこの議会と同じような答弁しかできないと思うんですけれども、その次の9月にはそれなりの発表がなされるでしょうか。まだ、今多分いろいろ出ている中で発表はできないんだろうと思うんですけれども、どうですか。

○委員長（一木重夫君） 村長、森下君。

○村長（森下一男君） 稲垣委員のご質問が成案として出るかということのご質問だとしたら、ちょっと成案までにはまだ届かないんだろうと思います。

しかしながら、杉田委員もご心配されましたが知事としての考え方、はっきり言えば小笠原に飛行場は必要だからつくるか、いや必要ないから私はつくる気がないとか、少なくともそういう意思表示がまず出た上で、そこに向けてどういう道筋を進めていくかということはある一定の方向性を出していただくということですから、間違いなく6月の来島時に表明をされるものとこのように考えています。

○委員長（一木重夫君） よろしいですか。

私のほうからちょっと1点だけ村長に伺いたいと思います。

昨年12月27日に朝日新聞の報道がありまして、その中で小池都知事がどうも滑走路を短くしたものを考えているようだという報道がありまして、それを受けて翌年の1月9日に先ほど報告があったように滑走路の長さをできるだけ短くした滑走路で考えているという、ある意味今までにない踏み込んだ発言を小池都知事がしたわけですね。各社その発言を報道もされました。先般の東京都議会においても3月1日にはそのような方針を出して、また先日の小笠原諸島振興開発審議会でも1,200メートル案は環境改変が大きいということで東京都も述べておりました。

そんな中、2月15日に村長は直接意見交換をされていますよね。航空路開設を要望したときに、何か具体的な話というのは都知事のほうからは出なかったんでしょうか。

村長、森下君。

○村長（森下一男君） 私と知事のやりとりはインターネット上でも見ることができると思いますので、ご覧になっていただければと思いますが、知事がマスコミにいろいろ答えた部分や、私もマスコミの取材を受けて私の言動が毎日新聞等でもいろいろ出ましたが、全体の中での流れとまた特別見出しになりそうな部分と、その部分はマスコミの報道、決

してマスコミの報道を疑うということではなくて、注意して見ていかなければいけないと思います。

今日の特別委員会の報告にもありますように、小笠原の航空路は環境に調和したということが一つのテーマです。

これはまず法律的にいいますと、国立公園法、この地域を除外したところですね、特別地域とかそういうところ。

それからもう一つ、これがよく誤解されるんですが、小笠原は世界自然遺産だからできないではなくて、世界自然遺産地域を外したところなんです。これがまず法にのっとった形のことでですね。だから洲崎はそういう意味でまったく問題ありません。その上で、まだなるべく環境に負荷を与えないようなものをつくりたいということを再三再四述べていらっしゃいます。したがって、それは滑走路はできるだけ短いほうがいいよねということはおっしゃっていると思います。

しかし、話の根幹は小笠原には航空路が必要ですね、村民の皆さんのご期待に沿いたい、環境に調和した航空路の開設を目指しますと、これが知事の考え方、私に対するお答えというふうに受け取っていただければと思います。

○委員長（一木重夫君） はい、了解しました。

その他ございませんか。

（挙手する者なし）

○委員長（一木重夫君） 質疑がもうないので、これにて質疑を終了します。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（一木重夫君） 異議なしと認めます。

◎その他

○委員長（一木重夫君） 次に、日程第2、その他事項で何かございますか。

（発言する者なし）

○委員長（一木重夫君） 質疑がないようですのでこれにて質疑を終了します。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（一木重夫君） 異議なしと認めます。

◎閉会中の継続調査について

○委員長（一木重夫君） 次に、日程第3、本委員会の閉会中の継続調査についてお諮りします。

お手元に配付の事件調査のために、閉会中の継続調査の申し出をしたいと思いますが、これにご異議ありませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（一木重夫君） 異議なしと認めます。

よって、閉会中の継続調査を申し出ることに決定しました。

◎閉会の宣告

○委員長（一木重夫君） お諮りします。

本日の議題は終了しましたので、これをもって本委員会を終了したいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（一木重夫君） 異議なしと認めます。

よって、本日の委員会を閉じます。

これを持ちまして、小笠原航空路開設推進特別委員会を閉会いたします。

お疲れさまでした。

（午後2時38分）